

平成26年度事業評価シート(地域振興特別予算)

事業名		62199		地域活性化イベント開催事業	担当課	久々野支所 基盤産業課			内線
		専任							3531
予算	会計	1	一般会計			特別 位置 付け の 算	○	A	合併前から実施されているイベント・行事
	款	6	商工費				B	一般予算の上乗せとして実施されている事業	
	項	2	観光費				C	終期を定めて実施する事業・単年度事業	
	目	1	観光振興費	D	その他事業				
根拠計画		地域振興計画							
市長公約		1	積極的な観光振興策を実施します。 ◎新たな観光資源を発掘し活用します ・合併後の周辺の自然環境や地域特有の伝統文化など多様な観光資源を新たな観光資源として積極的に活用します。						

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	全市民	対象者数	91,605 人
	どういう状態にしたいのか(意図)	・久々野地域の住民が主体となり、地域のかさなる活性化を図るイベントを開催し、高山市内外からの誘客を図る。		
概要	事業の実施手法(手段)	・ひだ桃源郷くぐの観光協会が事務局となり、地域住民が中心に実行委員会を構成し各イベントを開催する。 (◎ひだ桃源郷くぐのアマゴ釣り大会 ◎ふるさとくぐの会 ◎アルコピアひまわり園 ◎ひだ桃源郷くぐの納涼夏祭り ◎ひだ桃源郷収穫劇場 ◎アルコピアスノーカーニバル)		

2 事業の推移・結果(Do)

H25の実績		・イベントの開催 ◎ひだ桃源郷くぐのアマゴ釣り大会 ◎ふるさとくぐの会 ◎アルコピアひまわり園 ◎ひだ桃源郷くぐの納涼夏祭り ◎ひだ桃源郷収穫劇場(台風により中止) ◎アルコピアスノーカーニバル						
指標名			単位	目標・実績	H24	H25	H26	
活動指標	イベント開催数		回	目標値	6	6	6	
				実績値	6	5	-	
	算出根拠等	イベント開催数		達成率(%)	100	83	-	
成果指標	イベント総来場者数		人	目標値	22,000	22,000	22,000	
				実績値	20,707	14,456	-	
	算出根拠等	イベント総来場者数		達成率(%)	94	66	-	
成果面				目標値				
				実績値			-	
	算出根拠等			達成率(%)			-	
				目標値				
				実績値			-	
	算出根拠等			達成率(%)			-	
				目標値				
				実績値			-	
	算出根拠等			達成率(%)			-	
				目標値				
				実績値			-	
	算出根拠等			達成率(%)			-	
				目標値				
				実績値			-	
	算出根拠等			達成率(%)			-	
	補足事項							
	コスト面	事業費 (人件費を除き繰越・補正を含む)			H24 決算額	H25 決算額	H26 予算額	
歳出 (千円) (A)			9,993	7,368	8,000			
財源内訳		受益者負担(使用料・負担金等)						
		その他特定財源(国・県支出金・起債等)						
		一般財源			9,993	7,368	8,000	
コスト指標		受益者1件当たり(円) (A／B)			108	80	87	
		受益者	全市民	(B)	92,861	92,097	91,605	

3 分析・評価(Check) ※平成25年度の実績を評価

評価項目		評価観点	評価基準		評価	評価内容の説明(評価の理由等)
①	市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2)	ニーズが高い	A	・各イベントは久々野地域の特色を生かしたものであり、地域の期待も大きく地域経済の活性化に結びつく。
			B (1)	ある程度のニーズがある		
			C (0)	ニーズが低い		
②	市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2)	事業主体を見直す余地はない	B	・自己負担率をふやしながら、久々野地域の住民が主体となり、自主的に運営するよう進めて行く。
			B (1)	一部見直しが必要である		
			C (0)	市が実施する必要性が低い		
③	活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2)	目的とする成果が十分にあげている	A	・開催しているイベントは地域や観光客に定着してきており、市内外からの参加者も増加している。
			B (1)	目的とする成果がある程度あがっている		
			C (0)	目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である		
④	執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2)	事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない	A	・地域団体及び住民の協力により、最小限のコストで実施されており、改善の余地はない。
			B (1)	事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている		
			C (0)	効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤	政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2)	効果があった	A	・久々野地域の特色を生かしたイベントであり、地域全体で活性化できるものとなった。
			B (1)	ある程度効果があった		
			C (0)	あまり効果が見られなかった		

合計		9 / 10	→	100点換算	90 点
----	--	--------	---	--------	------

分析・評価で明らかにになった課題(「A」評価にするために何が必要なかを記入)	・地域住民が主体となり、実施するイベントであり、自主的に運営できるように進める。
--	--

(参考) H25事業評価結果(二次評価)	・地域主体の事業とすべく、特例期間終了を見据え、行政の支援を縮小する必要がある。 ・各種効果について分析を行い、各イベントのあり方について検討する必要がある。
----------------------	--

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する今年度の対応状況	・久々野地域の活性化のためのイベントであるが、効果を検証し、必要性の高いイベントは自己負担率を増やし自主運営できるようにする。
-----------------	---

次年度の実施方針(担当課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	○	H26完了予定

二次評価(企画課・総務課・財政課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	○	H26完了予定

平成26年度事業評価シート(地域振興特別予算)

事業名		95199	地域スポーツ振興事業 (アルコピアスキー大会開催事業)		担当課	久々野支所 地域振興課		内線
		専任						3512
予算	会計	1	一般会計		特別 位置 付け の 予算	○	A	合併前から実施されているイベント・行事
	款	9	教育費			B	一般予算の上乗せとして実施されている事業	
	項	5	保健体育費			C	終期を定めて実施する事業・単年度事業	
	目	1	体育総務費			D	その他事業	
根拠計画			地域振興計画					
市長公約		1	積極的な観光振興策を実施します ◎新たな観光資源を発掘し活用します ・合併後の周辺の自然環境や地域特有の伝統文化など多様な観光資源を新たな観光資源として積極的に活用します					

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	全市民	対象者数	91,605 人
	どういう状態にしたいのか(意図)	・ウインタースポーツ振興による青少年育成、シニアスキーヤー復活・獲得、アルコピアスキー場の活性化		
概要	事業の実施手法(手段)	・小中学生やシニアといった幅広い年齢層を対象にし、技術性の高いスキー大会を開催する。		

2 事業の推移・結果(Do)

H25の実績		・ロシニョール杯第31回アルコピアジュニアスキー大会(1月26日) ・HEAD杯第56回アルコピアルペンスキー大会(2月16日) ・第19回アルコピアスノーボードカップ(2月23日)					
		指標名		単位	目標・実績	H24	H25
成果面	活動指標	大会開催数	回	目標値	3	3	3
				実績値	3	3	-
		算出根拠等		達成率(%)	100	100	-
	成果指標	大会参加者数	人	目標値	450	450	450
				実績値	339	323	-
		算出根拠等		達成率(%)	75	72	-
	成果指標	地元参加者数	人	目標値	150	150	150
				実績値	152	120	-
		算出根拠等		達成率(%)	101	80	-
	成果指標	市外参加者数	人	目標値	350	200	200
				実績値	187	203	-
		算出根拠等		達成率(%)	53	102	-
				目標値			
				実績値			-
		算出根拠等		達成率(%)			-
				目標値			
			実績値			-	
算出根拠等			達成率(%)			-	
補足事項							
コスト面	事業費 (人件費を除き繰越・補正を含む)			H24 決算額	H25 決算額	H26 予算額	
	歳出(千円)(A)			800	800	800	
	財源内訳						
	受益者負担(使用料・負担金等)						
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)						
	一般財源			800	800	800	
	受益者1件当たり(円)(A÷B)			9	9	9	
コスト指標	受益者	全市民	(B)	92,861	92,097	91,605	

3 分析・評価(Check) ※平成25年度の実績を評価

評価項目		評価観点	評価基準		評価	評価内容の説明(評価の理由等)
①	市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2)	ニーズが高い	B	・全国的にスキー人口が減少している中で、市民だけでなく、県内外からの参加者も多くありニーズはある。
			B (1)	ある程度のニーズがある		
			C (0)	ニーズが低い		
②	市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2)	事業主体を見直す余地はない	B	・スキー大会の運営は実行委員会で実施されており問題はない。 ・スキー場という高山市の冬場の観光資源の活用を図る観点から効果がある。
			B (1)	一部見直しが必要である		
			C (0)	市が実施する必要性が低い		
③	活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2)	目的とする成果が十分にあげている	B	・スキー大会の開催により、選手だけでなく家族や友人の来場も見込めるため、有効であるが、参加者数は目標に達していないことから更にPRIに努める必要がある。
			B (1)	目的とする成果がある程度あがっている		
			C (0)	目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である		
④	執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2)	事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない	B	・実行委員会方式により実施することで、関係機関が連携して大会を運営するとともに、運営経費削減に努めた。
			B (1)	事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている		
			C (0)	効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤	政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2)	効果があった	A	・スポーツ振興だけでなく、誘客イベント的な大会として、地域の活性化に効果がある。
			B (1)	ある程度効果があった		
			C (0)	あまり効果が見られなかった		

合計		6	/	10	→	100点換算	60	点
----	--	---	---	----	---	--------	----	---

分析・評価で明らかにになった課題(「A」評価にするために何が必要なかを記入)	・大会参加者の増加に向け更なるPRを検討する必要がある。 ・自主運営できる財源の確保が必要である。
--	--

(参考) H25事業評価結果 (二次評価)	・各種効果について分析を行い、他のスキー場との関連やスポーツ大会誘致のあり方について検討する必要がある。
-----------------------------	--

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する今年度の対応状況	・自主事業に向けた財源確保(協賛金等) ・参加者の増加に向けた新たな取り組みの検討
-----------------	--

次年度の実施方針 (担当課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	○	H26完了予定

二次評価 (企画課・総務課・財政課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	○	H26完了予定

平成26年度事業評価シート(地域振興特別予算)

事業名	31399		地域老人福祉推進事業費 (老人クラブ活動費助成事業)	担当課	久々野支所 地域振興課		内線
	番組						
	会計	1	一般会計				
	款	3	民生費				
	項	1	社会福祉費				
予算	目	3	老人福祉費	特別 置 付 け 算 の	A	合併前から実施されているイベント・行事	3521
					○ B	一般予算の上乗せとして実施されている事業	
根拠計画			高山市老人福祉計画	C	終期を定めて実施する事業・単年度事業		
				D	その他事業		
市長公約							
		5	医療・福祉を充実させます 地域住民が互いに支えあう仕組みや、緊急時の支援を万全にするため、独居老人、要介護者等への地域福祉体制を整備します。				

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	60歳以上の市民で構成される単位老人クラブ及び連合組織	対象者数	9,751 人
	どういう状態にしたいのか(意図)	地域を基盤とした老後の社会活動の円滑な展開と町づくりへの高齢者の参画の促進		
概要	事業の実施手法(手段)	高齢社会を支える上で大きな役割を担っている老人クラブに対し、高齢者の生きがいと健康づくり、福祉の向上のために助成することにより、各種活動の育成、支援を行う。		

2 事業の推移・結果(Do)

H25の実績		市連合長寿会に対する支援 ・会員及び各区、単位クラブに対する活動助成 ・事務局人件費に対する助成				
指標名		単位	目標・実績	H24	H25	H26
活動指標	連合長寿会会員数	人	目標値	10,000	10,000	10,000
			実績値	9,584	9,677	-
	算出根拠等		達成率(%)	96	97	-
活動指標	連合長寿会単位老人クラブ数	クラブ	目標値	143	139	140
			実績値	139	138	-
	算出根拠等		達成率(%)	97	99	-
活動指標	連合長寿会加入率	%	目標値	40	40	40
			実績値	38	37	-
	算出根拠等	連合長寿会加入者数/65歳以上人口	達成率(%)	95	93	-
			目標値			
			実績値			-
	算出根拠等		達成率(%)			-
			目標値			
			実績値			-
	算出根拠等		達成率(%)			-
			目標値			
			実績値			-
	算出根拠等		達成率(%)			-
補足事項						
コスト面	事業費 (人件費を除き繰越・補正を含む)		H24 決算額	H25 決算額	H26 予算額	
	歳出(千円)(A)		420	420	420	
	財源内訳					
	受益者負担(使用料・負担金等)					
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)		150	149	280	
	一般財源		270	271	140	
	コスト指標	受益者1件当たり(円)(A÷B)	462	458	456	
	受益者	久々野区会員数(4月1日現在)(B)	910	918	922	

3 分析・評価(Check) ※平成25年度の実績を評価

評価項目		評価観点		評価基準		評価	評価内容の説明(評価の理由等)	
①	市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2)	ニーズが高い	B		高齢者が住み慣れた地域で、他の高齢者や住民と交流を持ちながら健康で日常生活を送るための活動として、市民の関心は高く、地域活動にも根付いているが、高齢者のニーズの多様化により加入者は減少傾向にある。	
			B (1)	ある程度のニーズがある				
			C (0)	ニーズが低い				
②	市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2)	事業主体を見直す余地はない	A		市は、老人福祉法(第十条の三第一項)の規定により、老人クラブなどの老人福祉を増進することを目的とする事業を行う者の活動の連携及び調整、地域の実情に応じた体制整備に努めなければならないため。	
			B (1)	一部見直しが必要である				
			C (0)	市が実施する必要性が低い				
③	活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2)	目的とする成果が十分にあがっている	B		老人クラブ加入者は、減少傾向であるため、役員等により、組織や活動の見直しに取り組んでいる。	
			B (1)	目的とする成果がある程度あがっている				
			C (0)	目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である				
④	執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2)	事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない	A		補助金の額は、会員数及び単位老人クラブ数により、算出するため。	
			B (1)	事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている				
			C (0)	効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である				
⑤	政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2)	効果があった	A		長寿会活動に参加することにより、高齢者の健康増進と閉じこもり予防が図れた。	
			B (1)	ある程度効果があった				
			C (0)	あまり効果が見られなかった				

合計		8 / 10	→	100点換算	80 点
----	--	--------	---	--------	------

分析・評価で 明らかになった課題 (FA)評価にするために何が 必要なのかを記入)	・市域全体として、新規加入者が少なく、連合長寿会会員加入率及び単位クラブの減が課題となっている。健康で生きがいを持って生活するために、地域とのつながりも深めながら、今後一層の充実と活発な取り組みが必要である。
--	--

(参考) H25事業評価結果 (二次評価)	・市域全体としては、会員数・クラブ数は減少傾向にあり、事業効果が高齢者全体に及んでいないようになってきていることから、老人クラブ活動費補助金との一本化については、今後の支援のあり方も含めて検討する必要がある。
-----------------------------	--

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する 今年度の対応状況	・本補助金を有効に活用するため、老人クラブにおける活動内容の見直しを進めながら事業継続し、組織の育成と活動の支援を行う。
---------------------	--

次年度の 実施方針 (担当課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	○	H26完了予定

二次評価 (企画課・総務課・財政課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	○	H26完了予定

平成26年度事業評価シート(地域振興特別予算)

事業名		72199		市道未登記用地測量事業	担当課	久々野支所 基盤産業課		内線
		番組						3541
予算	会計	1	一般会計	特別 位置 付け 算の		A	合併前から実施されているイベント・行事	
	款	7	土木費		○	B	一般予算の上乗せとして実施されている事業	
	項	2	道路橋りょう費			C	終期を定めて実施する事業・単年度事業	
	目	1	道路橋りょう総務費			D	その他事業	
根拠計画			地域振興計画					
市長公約		4	個人・家庭・地域を大切にする社会を築きます ・日常における買い物、通勤、通学、通院などの移動手段を確保するため、市民の生活を守る公共交通網を整備します。					

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	全市民	対象者数	91,605 人
	どういう状態にしたいのか(意図)	・個人名義となっている市所有の道路用地について、分筆及び名義変更を行う。		
概要	事業の実施手法(手段)	・個人名義となっている市所有の道路用地を調査し、(社)岐阜県公共嘱託登記土地家屋調査士協会へ登記業務を委託する。		

2 事業の推移・結果(Do)

H25の実績		・未登記となっている2路線で13筆を所有権移転					
指標名			単位	目標・実績	H24	H25	H26
活動指標	所有権移転登記完了筆数		筆	目標値	25	10	22
				実績値	14	13	-
	算出根拠等			達成率(%)	56	130	-
成果指標	所有権移転登記完了筆数		筆	目標値	345	353	353
				実績値	157	181	-
	算出根拠等			達成率(%)	46	51	-
成果面				目標値			
				実績値			-
	算出根拠等			達成率(%)			-
				目標値			
				実績値			-
	算出根拠等			達成率(%)			-
				目標値			
				実績値			-
	算出根拠等			達成率(%)			-
				目標値			
				実績値			-
	算出根拠等			達成率(%)			-
				目標値			
				実績値			-
	算出根拠等			達成率(%)			-
補足事項							
コスト面	事業費 (人件費を除き繰越・補正を含む)			H24 決算額	H25 決算額	H26 予算額	
	歳出 (千円) (A)			4,982	5,007	5,000	
	受益者負担(使用料・負担金等)						
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)						
	一般財源			4,982	5,007	5,000	
	受益者1件当たり(円) (A÷B)			54	54	55	
	受益者 全市民 (B)			92,861	92,097	91,605	

3 分析・評価(Check) ※平成25年度の実績を評価

評価項目		評価観点	評価基準		評価	評価内容の説明(評価の理由等)
①	市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2)	ニーズが高い	A	・市道は日常生活に必要なものであり、道路用地の確保は市民にとっては重要である。
			B (1)	ある程度のニーズがある		
			C (0)	ニーズが低い		
②	市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2)	事業主体を見直す余地はない	A	・生活に身近な市道の道路用地を確保することは、市として当然の義務であり実施する必要性は高い。
			B (1)	一部見直しが必要である		
			C (0)	市が実施する必要性が低い		
③	活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2)	目的とする成果が十分にあがっている	B	・市道用地の登記名義人の理解により達成率はあがってきている。
			B (1)	目的とする成果がある程度あがっている		
			C (0)	目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である		
④	執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2)	事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない	B	・1筆あたりの登記費用が高く、職員の人件費も加えると費用は大きくなりつつある。
			B (1)	事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている		
			C (0)	効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤	政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2)	効果があった	A	・総合計画に記載されている「すみよさ」のあるまちを目指すため、生活の身近な道路用地を確保する事は必要であり、市道用地の適正な管理を行う事は重要性が高い。
			B (1)	ある程度効果があった		
			C (0)	あまり効果が見られなかった		

合計		8	/	10	→	100点換算	80	点
----	--	---	---	----	---	--------	----	---

分析・評価で 明らかにになった課題 (FA)評価にするために何が 必要なのかを記入)	・個人名義となっている市所有の道路用地が非常に多く、現在の登記名義人に理解を得ることや、相続に関する課題等が多い。 ・各筆の境界確定のため道路用地名義人以外の関係者にも現地を立ち会って頂くことが必要であり、関係者全員の立会い協力について理解を得ることが難しい。
---	---

(参考) H25事業評価結果 (二次評価)	・平成26年度までに重要路線の未登記処理を完了できるよう積極的に取り組んでいく必要がある。
-----------------------------	---

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する 今年度の対応状況	・名義人等各関係者に粘り強く説明し理解を得、1筆でも多く登記を完了する。
---------------------	--------------------------------------

次年度の 実施方針 (担当課評価)		維持・改善		拡大		縮小		廃止の検討	○	H26完了予定

二次評価 (企画課・総務課・財政課評価)		維持・改善		拡大		縮小		廃止の検討	○	H26完了予定

平成26年度事業評価シート(地域振興特別予算)

事業名		94199		花いっぱい運動推進事業	担当課	久々野支所 地域振興課			内線
		番組							3512
予算	会計	1	一般会計		特別 位置付 けの 算		A	合併前から実施されているイベント・行事	
	款	9	教育費			○	B	一般予算の上乗せとして実施されている事業	
	項	4	社会教育費				C	終期を定めて実施する事業・単年度事業	
	目	1	社会教育総務費				D	その他事業	
根拠計画			地域振興計画						
市長公約		1	個人・家庭・地域を大切にするとする社会を築きます ・市民が幸せな家庭生活を送り、安心して暮らせる地域を築くため、地域の自主的なコミュニティ活動や環境整備事業の 予算枠を確保します						

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	久々野地域住民	対象者数	3,720 人
	どういった状態にしたいのか(意図)	・地域ぐるみで花いっぱい運動を実践し、美しいまちづくりを推進する。 ・花いっぱい運動を通じて、地域住民のふれあいと地域コミュニティの醸成を図る。		
概要	事業の実施手法(手段)	・久々野地域全体へ花苗等を配布することにより、地域ぐるみでの花づくりを支援する。		

2 事業の推移・結果(Do)

H25の実績		・久々野地域内の町内会へ花苗、肥料を配布 ・久々野地域内の公共施設へ花苗、肥料を配布					
成果面	指標名		単位	目標・実績	H24	H25	H26
	活動指標	花苗配布数	株	目標値	15,994	15,000	15,000
				実績値	15,994	14,814	-
		算出根拠等		達成率(%)	100	99	-
	活動指標	花づくり講習会	回	目標値	1	1	1
				実績値	1	1	-
		算出根拠等		達成率(%)	100	100	-
	成果指標	地区花壇数	箇所	目標値	43	43	43
				実績値	43	43	-
		算出根拠等		達成率(%)	100	100	-
	成果指標	公共施設数	箇所	目標値	7	7	7
				実績値	7	7	-
		算出根拠等		達成率(%)	100	100	-
				目標値			
				実績値			-
		算出根拠等		達成率(%)			-
			目標値				
			実績値			-	
	算出根拠等		達成率(%)			-	
補足事項							
コスト面	事業費 (人件費を除き繰越・補正を含む)			H24 決算額	H25 決算額	H26 予算額	
	歳出(千円)(A)			1,415	937	1,100	
	受益者負担(使用料・負担金等)						
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)						
	一般財源			1,415	937	1,100	
	受益者1件当たり(円)(A／B)			370	248	296	
	受益者	久々野地域住民(B)	3,822	3,771	3,720		

3 分析・評価(Check) ※平成25年度の実績を評価

評価項目		評価観点		評価基準		評価	評価内容の説明(評価の理由等)	
①	市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2)	ニーズが高い	A		・花づくりを通じて、環境美化や住環境の向上につながるともに、地域のつながりとコミュニケーションの場となるため、ニーズは高い。	
			B (1)	ある程度のニーズがある				
			C (0)	ニーズが低い				
②	市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2)	事業主体を見直す余地はない	B		・市民憲章推進協議会が実施している花いっぱい運動との関係を検討する必要がある。	
			B (1)	一部見直しが必要である				
			C (0)	市が実施する必要性が低い				
③	活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2)	目的とする成果が十分にあがっている	A		・地域全体が一緒に取り組むことにより、地域への愛着や連帯感が高まっている。	
			B (1)	目的とする成果がある程度あがっている				
			C (0)	目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である				
④	執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2)	事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない	A		・低コストで花苗を希望どおりの数を配布できるように工夫している。	
			B (1)	事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている				
			C (0)	効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である				
⑤	政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2)	効果があった	A		・花づくりにより、地域を大切に社会づくりの実現に効果がある。	
			B (1)	ある程度効果があった				
			C (0)	あまり効果が見られなかった				

合計		9 / 10	→	100点換算	90 点
----	--	--------	---	--------	------

分析・評価で明らかにになった課題(「A」評価にするために何が必要なかを記入)	・同一事業の関連性の整理を行い、事業のあり方や一般予算への引き継ぎを検討する必要がある。
--	--

(参考) H25事業評価結果 (二次評価)	・「花いっぱい運動」については、一般予算による補助金(市民憲章推進事業補助金、特色ある地区活動事業補助金等)との整理が必要である。 ・特例期間終了を見据え、市全体のバランスを考慮し、助成のあり方・事業費規模などについて検討する必要がある。
-----------------------------	--

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する今年度の対応状況	・各町内会へ花いっぱい運動の協力依頼(18町内会) ・特例期間終了に伴う次年度以降の各町内会等の意向把握
-----------------	---

次年度の 実施方針 (担当課評価)		維持・改善		拡大		縮小		廃止の検討	○	H26完了予定

二次評価 (企画課・総務課・財政課評価)		維持・改善		拡大		縮小		廃止の検討	○	H26完了予定

平成26年度事業評価シート(地域振興特別予算)

事業名		94699	久々野校区文化振興事業	担当課	久々野支所 地域振興課			内線	
		専任							3512
予算	会計	1			一般会計	特別 位置 付け 算の		A	合併前から実施されているイベント・行事
	款	9			教育費		○	B	一般予算の上乗せとして実施されている事業
	項	4			社会教育費			C	終期を定めて実施する事業・単年度事業
	目	6	文化振興費		D		その他事業		
根拠計画			地域振興計画						
市長公約		9	伝統文化を守り、次世代へ継承します。 ◎芸術文化の振興を積極的に支えます。 ・心の中や生活に潤いと豊かさを醸し、生きがいや、若者の社会参加へのやる気づくりにもつながる芸術文化活動をさらに浸透させ、広げていくために芸術文化の保存と継承、新たな芸術文化の創出のための予算を総予算枠の1%以上を確保する。						

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	久々野地域住民	対象者数	3,720 人
	どういった状態にしたいのか(意図)	・優れた芸術文化に触れる機会の充実と地域に根ざした芸術文化の振興を図る。		
概要	事業の実施手法(手段)	・質の高い芸術文化の鑑賞など、地域が主体となって取り組めるよう支援する。 ・事業を継続的に実施し、地域住民への浸透を図り、文化活動の向上につなげる。		

2 事業の推移・結果(Do)

H25の実績		・桃源郷寄席「三遊亭円楽独演会」(7月30日) ・「松原のふえ」ふれあいコンサート(11月13日) ・文化展、芸能展(10月26日～10月30日) ・ふなやま川柳大会(8月15日)						
		指標名		単位	目標・実績	H24	H25	H26
		活動指標	事業実施回数	回	目標値	10	10	10
					実績値	10	9	-
成果面	算出根拠等		達成率(%)	100	90	-		
	成果指標	全事業の来場者数	人	目標値	5,350	4,600	4,600	
				実績値	4,746	4,670	-	
	算出根拠等		達成率(%)	89	102	-		
				目標値				
				実績値			-	
	算出根拠等		達成率(%)			-		
				目標値				
				実績値			-	
	算出根拠等		達成率(%)			-		
				目標値				
				実績値			-	
	算出根拠等		達成率(%)			-		
				目標値				
				実績値			-	
	算出根拠等		達成率(%)			-		
補足事項								
・生涯学習意欲の向上のために、あらゆる機会の提供と鑑賞による文化振興への意識が高まっている。								
コスト面	事業費 (人件費を除き繰越・補正を含む)			H24 決算額	H25 決算額	H26 予算額		
	歳出(千円)(A)			2,500	2,000	2,000		
	財源内訳	受益者負担(使用料・負担金等)						
		その他特定財源(国・県支出金・起債等)						
	コスト指標	一般財源			2,500	2,000	2,000	
		受益者1件当たり(円)(A／B)			654	530	538	
	受益者	久々野地域住民(B)		3,822	3,771	3,720		

3 分析・評価(Check) ※平成25年度の実績を評価

評価項目		評価観点		評価基準		評価	評価内容の説明(評価の理由等)	
①	市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2)	ニーズが高い	A		・文化活動を地域住民に位置付ける機会となり、幅広いサークル活動や質の高い芸術文化に触れる機会となるので、ニーズが高い。	
			B (1)	ある程度のニーズがある				
			C (0)	ニーズが低い				
②	市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2)	事業主体を見直す余地はない	B		・生涯学習による豊かな心と活力のある地域を目指すためには、市の関与も必要である。 ・社教事業として、地域の自主事業への転換が必要である。	
			B (1)	一部見直しが必要である				
			C (0)	市が実施する必要性が低い				
③	活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2)	目的とする成果が十分にあがっている	B		・地域住民の生涯学習活動のやる気の醸成という観点から、ある程度成果はある。	
			B (1)	目的とする成果がある程度あがっている				
			C (0)	目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である				
④	執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2)	事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない	B		・自主財源の確保が図られてきている。	
			B (1)	事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている				
			C (0)	効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である				
⑤	政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2)	効果があった	A		・生涯学習活動による、生きがいづくりや地域への参加活動による効果がある。	
			B (1)	ある程度効果があった				
			C (0)	あまり効果が見られなかった				

合計		7 / 10	→	100点換算	70 点
----	--	--------	---	--------	------

分析・評価で明らかにになった課題(「A」評価にするために何が必要なかを記入)	・地域の自主事業としての事業展開と財源確保により、引き続きの事業実施が必要である。
--	---

(参考) H25事業評価結果 (二次評価)	・特例期間終了を見据え、市全体のバランスを考慮し、縮小(廃止)を検討する必要がある。 ・文化芸術鑑賞事業との関係の整理、実績や効果の検証を行う必要がある。
-----------------------------	--

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する今年度の対応状況	・地域の自主事業として、自主財源の確保を図るよう進める。
-----------------	------------------------------

次年度の実施方針 (担当課評価)		維持・改善		拡大		縮小		廃止の検討	○	H26完了予定

二次評価 (企画課・総務課・財政課評価)		維持・改善		拡大		縮小		廃止の検討	○	H26完了予定

平成26年度事業評価シート(地域振興特別予算)

事業名		95199		地域スポーツ振興事業	担当課	久々野支所 地域振興課		内線
		番組						3512
予算	会計	1	一般会計	特別 位置 付け の 算		A	合併前から実施されているイベント・行事	
	款	9	教育費		○	B	一般予算の上乗せとして実施されている事業	
	項	5	保健体育費			C	終期を定めて実施する事業・単年度事業	
	目	1	体育総務費			D	その他事業	
根拠計画		地域振興計画						
市長公約								

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	久々野地域住民	対象者数	3,720 人
	どういう状態にしたいのか(意図)	いつでも、どこでも、だれでもが気軽にスポーツに親しめるようにする。		
概要	事業の実施手法(手段)	・ソフトボール大会、バレーボール大会、野球大会、スポーツフェスティバル、卓球大会、剣道大会、スキー大会		

2 事業の推移・結果(Do)

H25の実績		・町民ソフトボール大会(6月2日) ・黒獅子旗野球大会(6月3日～9月30日) ・町民バレーボール大会(7月28日) ・ソフトボールクラブ選手権(7月9日～8月12日) ・町民野球大会(8月20日～9月5日) ・スポーツフェスティバル(10月6日) ・町民卓球大会(10月20日) ・ふれあいソフトミニバレーボール大会(10月20日) ・町民剣道大会(11月9日) ・町民スキー教室(1月11日～13日) ・町民スキー大会(3月2日)						
		指標名		単位	目標・実績	H24	H25	H26
		活動指標	スポーツイベント開催回数	回	目標値	13	13	13
					実績値	10	11	-
		算出根拠等			達成率(%)	77	85	-
成果指標	スポーツイベント参加者数	人	目標値	1,800	1,800	1,800		
			実績値	2,007	2,288	-		
			達成率(%)	112	127	-		
成果面			目標値					
			実績値			-		
			算出根拠等			達成率(%)		-
			目標値					
			実績値			-		
			算出根拠等			達成率(%)		-
			目標値					
			実績値			-		
			算出根拠等			達成率(%)		-
			目標値					
			実績値			-		
			算出根拠等			達成率(%)		-
	補足事項							
	コスト面	事業費 (人件費を除き繰越・補正を含む)			H24 決算額	H25 決算額	H26 予算額	
歳出 (千円) (A)			350	300	300			
受益者負担(使用料・負担金等)								
その他特定財源(国・県支出金・起債等)								
一般財源			350	300	300			
受益者1件当たり(円) (A÷B)			92	80	81			
コスト指標		受益者	久々野地域住民 (B)	3,822	3,771	3,720		

3 分析・評価(Check) ※平成25年度の実績を評価

評価項目		評価観点		評価基準		評価	評価内容の説明(評価の理由等)	
①	市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2)	ニーズが高い	A		・地域のコミュニケーションとスポーツに親しむきっかけづくりとなっており、ニーズは高い。	
			B (1)	ある程度のニーズがある				
			C (0)	ニーズが低い				
②	市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2)	事業主体を見直す余地はない	B		・スポーツを通じて活力のある地域づくりを目指すため、市の間与も必要である。 ・社教事業として、地域の自主事業への転換が必要である。	
			B (1)	一部見直しが必要である				
			C (0)	市が実施する必要性が低い				
③	活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2)	目的とする成果が十分にあがっている	B		・地域住民の気軽にスポーツをする機会の提供という面で、ある程度成果はある。 ・子どもから高齢者まで、多くの方に参加してもらえよう工夫している。	
			B (1)	目的とする成果がある程度あがっている				
			C (0)	目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である				
④	執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2)	事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない	B		・自主事業として、財源確保に努めている。 ・補助事業による内容の精査が必要である。	
			B (1)	事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている				
			C (0)	効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である				
⑤	政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2)	効果があった	A		・地域住民の体力向上と地域コミュニティの活性化、スポーツに親しむきっかけづくりに効果がある。	
			B (1)	ある程度効果があった				
			C (0)	あまり効果が見られなかった				

合計		7 / 10	→	100点換算	70 点
----	--	--------	---	--------	------

分析・評価で明らかにになった課題(FA)評価にするために何が必要なかを記入)	・地域の自主事業としての事業展開と財源確保により、引き続きの事業実施が必要である。
--	---

(参考) H25事業評価結果(二次評価)	・特例期間終了を見据え、市全体のバランスを考慮し、縮小(廃止)を検討する必要がある。
----------------------	--

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する今年度の対応状況	・地域の自主事業として、自主財源の確保を図るよう進める。
-----------------	------------------------------

次年度の 実施方針 (担当課評価)		維持・改善		拡大		縮小		廃止の検討	○	H26完了予定

二次評価 (企画課・総務課・財政課評価)		維持・改善		拡大		縮小		廃止の検討	○	H26完了予定

平成26年度事業評価シート(地域振興特別予算)

事業名		53199		地域生活道路環境保全事業(林道分)	担当課	久々野支所 基盤産業課		内線
		番組						3531
予算	会計	1	一般会計	特別 位置 付け 算の	A	合併前から実施されているイベント・行事		
	款	5	農林水産業費		B	一般予算の上乗せとして実施されている事業		
	項	3	林業費		C	終期を定めて実施する事業・単年度事業		
	目	1	林業総務費		O	その他事業		
根拠計画		地域振興計画						
市長公約		3	産業の柱として農業・林業・畜産業を確立します。					

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	久々野地域住民	対象者数	3,720 人
	どういう状態にしたいのか(意図)	・地域間を結ぶふるさと林道は、地域住民の重要な道路となっており、交通安全上道路幅を確保する為除草を行う。		
概要	事業の実施手法(手段)	・(公社)高山市シルバー人材センターへ清掃草刈り業務を委託。 実施路線(舟山～牛牧線／阿多粕～西洞線／小坊～口有道線／桜野線／中俣線)		

2 事業の推移・結果(Do)

H25の実績		・実施路線(舟山～牛牧線／阿多粕～西洞線／小坊～口有道線／桜野線／中俣線)						
指標名			単位	目標・実績	H24	H25	H26	
活動指標	林道除草施工延長		m	目標値	25,157	29,764	29,764	
				実績値	25,157	29,764	-	
	算出根拠等	実施済施行延長		達成率(%)	100	100	-	
成果面				目標値				
				実績値			-	
	算出根拠等			達成率(%)			-	
				目標値				
				実績値			-	
	算出根拠等			達成率(%)			-	
				目標値				
				実績値			-	
	算出根拠等			達成率(%)			-	
				目標値				
				実績値			-	
	算出根拠等			達成率(%)			-	
				目標値				
				実績値			-	
	算出根拠等			達成率(%)			-	
補足事項								
コスト面	事業費 (人件費を除き繰越・補正を含む)			H24 決算額	H25 決算額	H26 予算額		
	歳出 (千円) (A)			920	920	1,000		
	財源内訳	受益者負担(使用料・負担金等)						
		その他特定財源(国・県支出金・起債等)						
		一般財源			920	920	1,000	
	コスト指標	受益者1件当たり(円) (A／B)			241	244	269	
		受益者	久々野地域住民 (B)		3,822	3,771	3,720	

3 分析・評価(Check) ※平成25年度の実績を評価

評価項目		評価観点	評価基準		評価	評価内容の説明(評価の理由等)
①	市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2)	ニーズが高い	A	・道路の景観整備や交通事故防止のため、ニーズは非常に高い。
			B (1)	ある程度のニーズがある		
			C (0)	ニーズが低い		
②	市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2)	事業主体を見直す余地はない	A	・地域間を結ぶ幹線林道で延長が長く、地域や利用者での自主的な維持管理はなかなかできない状況であるため、市で実施する必要がある。
			B (1)	一部見直しが必要である		
			C (0)	市が実施する必要性が低い		
③	活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2)	目的とする成果が十分にあがっている	A	・毎年計画のとおり実施し、目的を達成している。
			B (1)	目的とする成果がある程度あがっている		
			C (0)	目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である		
④	執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2)	事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない	B	・生活道路環境や景観保全、交通事故防止という目的からコストは概ね適正である。
			B (1)	事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている		
			C (0)	効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤	政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2)	効果があった	A	・安全で快適な林道環境を保ち、久々野地域住民の安全な生活を支えることができる。
			B (1)	ある程度効果があった		
			C (0)	あまり効果が見られなかった		

合計		9 / 10	→	100点換算	90 点
----	--	--------	---	--------	------

分析・評価で明らかにになった課題(「A」評価にするために何が必要なかを記入)	・安全な通行を確保するためには、道路の環境整備が必要不可欠であり今後も引き続きコスト縮減に努める必要がある。
--	--

(参考) H25事業評価結果(二次評価)	・市全体のバランスを考慮し、一般予算で実施しているものとの整合性を図って実施する必要がある。
----------------------	--

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する今年度の対応状況	・安全な通行を確保するため、道路の環境整備に努める。
-----------------	----------------------------

次年度の実施方針(担当課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	○	H26完了予定

二次評価(企画課・総務課・財政課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	○	H26完了予定

平成26年度事業評価シート(地域振興特別予算)

事業名		62499		位山舟山自然公園環境整備事業	担当課	久々野支所 基盤産業課		内線
		番組						3531
予算	会計	1	一般会計		特別予算の 位置付け	A	合併前から実施されているイベント・行事	
	款	6	商工費			B	一般予算の上乗せとして実施されている事業	
	項	2	観光費			○	終期を定めて実施する事業・単年度事業	
	目	3	自然公園費			D	その他事業	
根拠計画			地域振興計画					
市長公約		1	積極的な観光振興策を実施します。 ◎新たな観光資源を発掘し活用します。 ・合併後の周辺の自然環境や地域特有の伝統文化など多様な観光資源を新たな観光資源として積極的に活用します。					

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	全市民	対象者数	91,605 人
	どういう状態にしたいのか(意図)	・位山、あららぎ湖、船山を一体とする自然公園を整備し、市民や観光客などが安心して利用できるものとする。		
概要	事業の実施手法(手段)	・(公社)高山市シルバー人材センターに登山道の整備(草刈り、案内看板修繕等)を委託する。		

2 事業の推移・結果(Do)

H25の実績		・遊歩道及び登山道の整備(草刈り等)、木橋設置、登山カードポスト設置						
指標名			単位	目標・実績	H24	H25	H26	
活動指標	登山道整備(草刈り)延長		m	目標値	3,100	9,100	14,200	
				実績値	3,100	14,200	-	
	算出根拠等 草刈り延長			達成率(%)	100	156	-	
成果指標	登山者数		人	目標値	150	150	200	
				実績値	150	150	-	
	算出根拠等 登山者数			達成率(%)	100	100	-	
成果面				目標値				
				実績値			-	
	算出根拠等			達成率(%)			-	
				目標値				
				実績値			-	
	算出根拠等			達成率(%)			-	
				目標値				
				実績値			-	
	算出根拠等			達成率(%)			-	
				目標値				
				実績値			-	
	算出根拠等			達成率(%)			-	
				目標値				
				実績値			-	
	算出根拠等			達成率(%)			-	
	補足事項							
	コスト面	事業費 (人件費を除き繰越・補正を含む)			H24 決算額	H25 決算額	H26 予算額	
歳出 (千円) (A)			13,349	2,138	1,000			
受益者負担(使用料・負担金等)								
その他特定財源(国・県支出金・起債等)								
一般財源			13,349	2,138	1,000			
受益者1件当たり(円) (A÷B)			144	23	11			
コスト指標		受益者	全市民 (B)	92,861	92,097	91,605		

3 分析・評価(Check) ※平成25年度の実績を評価

評価項目		評価観点	評価基準		評価	評価内容の説明(評価の理由等)
①	市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2)	ニーズが高い	A	・登山を趣味とする方が年々増加し、船山、高屹山などの軽登山に人気があがっており、整備は必要である。
			B (1)	ある程度のニーズがある		
			C (0)	ニーズが低い		
②	市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2)	事業主体を見直す余地はない	A	・市で整備した登山道であるため、市での維持管理は必要である。
			B (1)	一部見直しが必要である		
			C (0)	市が実施する必要性が低い		
③	活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2)	目的とする成果が十分にあがっている	A	・計画どおり目的を達成している。
			B (1)	目的とする成果がある程度あがっている		
			C (0)	目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である		
④	執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2)	事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない	B	・登山者の事故防止や安心して利用できるという目的からコストは概ね適正である。
			B (1)	事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている		
			C (0)	効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤	政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2)	効果があった	A	・位山、あららぎ湖、船山を一体とした自然公園を整備することにより、来場者が増加し、地域の活性化に繋がる。
			B (1)	ある程度効果があった		
			C (0)	あまり効果が見られなかった		

合計		9 / 10	→	100点換算	90 点
----	--	--------	---	--------	------

分析・評価で明らかにになった課題(FA)評価にするために何が必要なのかを記入)	・登山道は毎年の整備が必要となるため、コストの縮減に努める必要がある。
---	-------------------------------------

(参考) H25事業評価結果(二次評価)	・市全体のバランスを考慮し、一般予算で実施しているものとの整合性を図って実施する必要がある。
----------------------	--

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する今年度の対応状況	・安全で快適な登山を楽しんでいただくため、整備に努める。
-----------------	------------------------------

次年度の実施方針(担当課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	○	H26完了予定

二次評価(企画課・総務課・財政課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	○	H26完了予定

平成26年度事業評価シート(地域振興特別予算)

事業名		21899		公有財産購入事業	担当課	久々野支所 地域振興課		内線	
		番組						3511	
予算	会計	1	一般会計	特別 位置 付け の 算		A	合併前から実施されているイベント・行事		
	款	2	総務費			B	一般予算の上乗せとして実施されている事業		
	項	1	総務管理費			○	C	終期を定めて実施する事業・単年度事業	
	目	8	財産管理費			D	その他事業		
根拠計画									
市長公約									

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	久々野地域住民	対象者数	3,720 人
	どういう状態にしたいのか(意図)	・土地開発基金の適正な管理を行う。		
概要	事業の実施手法(手段)	・合併前に土地開発基金で取得した特別養護老人ホーム用地の買戻しを行う。		

2 事業の推移・結果(Do)

H25の実績		・合併前に土地開発基金で取得した久々野中学校学校林用地の買戻し						
指標名			単位	目標・実績	H24	H25	H26	
成果面				目標値				
				実績値			-	
				算出根拠等	達成率(%)		-	
				目標値				
				実績値			-	
				算出根拠等	達成率(%)		-	
				目標値				
				実績値			-	
				算出根拠等	達成率(%)		-	
				目標値				
				実績値			-	
				算出根拠等	達成率(%)		-	
				目標値				
				実績値			-	
				算出根拠等	達成率(%)		-	
補足事項								
コスト面	事業費 (人件費を除き繰越・補正を含む)			H24 決算額	H25 決算額	H26 予算額		
	歳出 (千円) (A)			0	16,508	17,800		
	受益者負担(使用料・負担金等)							
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)							
	一般財源				16,508	17,800		
	コスト 指標	受益者1件当たり(円) (A／B)				4,378	4,785	
		受益者	久々野地域住民 (B)			3,771	3,720	

3 分析・評価(Check) ※平成25年度の実績を評価

評価項目		評価観点		評価基準		評価	評価内容の説明(評価の理由等)	
①	市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2)	ニーズが高い	評価対象外			
			B (1)	ある程度のニーズがある				
			C (0)	ニーズが低い				
②	市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2)	事業主体を見直す余地はない	評価対象外			
			B (1)	一部見直しが必要である				
			C (0)	市が実施する必要性が低い				
③	活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2)	目的とする成果が十分にあがっている	評価対象外			
			B (1)	目的とする成果がある程度あがっている				
			C (0)	目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である				
④	執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2)	事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない	評価対象外			
			B (1)	事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている				
			C (0)	効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である				
⑤	政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があつたか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2)	効果があつた	評価対象外			
			B (1)	ある程度効果があつた				
			C (0)	あまり効果が見られなかった				

合計		/	→	100点換算	評価対象外	点
----	--	---	---	--------	-------	---

分析・評価で明らかになった課題(「A」評価にするために何が必要なかを記入)	
---------------------------------------	--

(参考) H25事業評価結果 (二次評価)	・他の土地開発基金公園用地についても計画的な買戻しが必要である。
-----------------------------	----------------------------------

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する今年度の対応状況	・土地開発基金保有地の買戻しを行う。
-----------------	--------------------

次年度の実施方針 (担当課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	○	H26完了予定

二次評価 (企画課・総務課・財政課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	○	H26完了予定

平成26年度事業評価シート(地域振興特別予算)

事業名		54199	地域生活道路環境保全事業(農道分)		担当課	久々野支所 基盤産業課		内線
		番組						3531
予算	会計	1	一般会計		特別 位置 付け 算の	A	合併前から実施されているイベント・行事	
	款	5	農林水産業費			B	一般予算の上乗せとして実施されている事業	
	項	4	農業土木費			C	終期を定めて実施する事業・単年度事業	
	目	1	農業土木総務費			O	D その他事業	
根拠計画			地域振興計画					
市長公約		3	産業の柱としての農業・林業・畜産業を確立します。 ◎次代につながる農業を実現します。 ・農業生産額250億円を目指します。					

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	久々野地域住民	対象者数	3,720 人
	どうい状態にしたいのか(意図)	・広域営農団地農道は、飛騨農林事務所より管理移管を受け、高山市が管理することになっており、交通安全上片側一車線の道路幅は確保しなければならないため除草作業を行う。		
概要	事業の実施手法(手段)	・(公社)高山市シルバー人材センターへ清掃草刈り業務を委託する。(広域農道 11,473m)		

2 事業の推移・結果(Do)

H25の実績		・広域営農団地農道 大坊～有道間						
成果面	指標名		単位	目標・実績	H24	H25	H26	
	成果指標	農道除草延長		m	目標値	11,473	11,473	11,473
					実績値	11,473	11,473	-
		算出根拠等	実施済除草延長		達成率(%)	100	100	-
					目標値			
					実績値			-
		算出根拠等			達成率(%)			-
					目標値			
					実績値			-
		算出根拠等			達成率(%)			-
					目標値			
					実績値			-
		算出根拠等			達成率(%)			-
					目標値			
					実績値			-
		算出根拠等			達成率(%)			-
補足事項								
コスト面	事業費 (人件費を除き繰越・補正を含む)			H24 決算額	H25 決算額	H26 予算額		
	歳出 (千円) (A)			420	420	500		
	財源内訳	受益者負担(使用料・負担金等)						
		その他特定財源(国・県支出金・起債等)						
		一般財源			420	420	500	
	コスト指標	受益者1件当たり(円) (A÷B)			110	111	134	
		受益者	久々野地域住民 (B)		3,822	3,771	3,720	

3 分析・評価(Check) ※平成25年度の実績を評価

評価項目		評価観点	評価基準		評価	評価内容の説明(評価の理由等)
①	市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2)	ニーズが高い	A	・道路の景観整備や交通事故防止のため、ニーズは非常に高い。
			B (1)	ある程度のニーズがある		
			C (0)	ニーズが低い		
②	市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2)	事業主体を見直す余地はない	A	・地域間を結ぶ幹線林道で延長が長く、地域や利用者での自主的な維持管理はなかなかできない状況であるため、市で実施する必要がある。
			B (1)	一部見直しが必要である		
			C (0)	市が実施する必要性が低い		
③	活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2)	目的とする成果が十分にあげている	A	・毎年計画のとおり実施し、目的を達成している。
			B (1)	目的とする成果がある程度あがっている		
			C (0)	目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である		
④	執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2)	事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない	B	・生活道路環境や景観保全、交通事故防止という目的からコストは概ね適正である。
			B (1)	事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている		
			C (0)	効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤	政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2)	効果があった	A	・安全で快適な農道環境を保ち、久々野地域住民の安全な生活を支えることができる。
			B (1)	ある程度効果があった		
			C (0)	あまり効果が見られなかった		

合計		9 / 10	→	100点換算	90 点
----	--	--------	---	--------	------

分析・評価で明らかにになった課題(「A」評価にするために何が必要なかを記入)	・安全な通行を確保するためには、道路の環境整備が必要不可欠であり今後もコストの縮減に努める。
--	--

(参考) H25事業評価結果 (二次評価)	・農道の草刈りについては、地域や営農者による自主的な維持管理を求める必要がある。
-----------------------------	--

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する今年度の対応状況	・安全な通行を確保するため、道路の環境整備に努める。
-----------------	----------------------------

次年度の実施方針 (担当課評価)		維持・改善		拡大		縮小		廃止の検討	○	H26完了予定

二次評価 (企画課・総務課・財政課評価)		維持・改善		拡大		縮小		廃止の検討	○	H26完了予定

平成26年度事業評価シート(地域振興特別予算)

事業名		72299		地域生活道路環境保全事業(市道分)	担当課	久々野支所 基盤産業課		内線
		番組						3541
予算	会計	1	一般会計		特別 位置 付け	A	合併前から実施されているイベント・行事	
	款	7	土木費			B	一般予算の上乗せとして実施されている事業	
	項	2	道路橋りょう費			C	終期を定めて実施する事業・単年度事業	
	目	2	道路橋りょう維持費			O	D	その他事業
根拠計画			地域振興計画					
市長公約		6	市民の生活と生命・財産を守ります ・支所地域と市街地を結ぶ主要道路の整備や都市計画道路の整備を進めます。					

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	久々野地域住民	対象者数	3,720 人
	どういう状態にしたいのか(意図)	・久々野地域の町内会と町内会を結ぶ市道について、地域住民に草刈りをお願いしているが施行延長が長く、地元町内会ではなかなか出来ない現状である。交通事故防止や景観保全のため草刈り清掃を実施する。		
概要	事業の実施手法(手段)	・(公社)高山市シルバー人材センターへ草刈り清掃業務を委託する。(市道平野線他5路線 L=13, 340m A=32, 000m)		

2 事業の推移・結果(Do)

H25の実績		・市道平野線他5路線 L=13, 340m A=32, 000㎡						
指標名			単位	目標・実績	H24	H25	H26	
成果面	成果指標	市道除草延長	m	目標値	13,340	13,340	13,340	
				実績値	13,340	13,340	-	
		算出根拠等		達成率(%)	100	100	-	
				目標値				
				実績値			-	
		算出根拠等		達成率(%)			-	
				目標値				
				実績値			-	
		算出根拠等		達成率(%)			-	
				目標値				
				実績値			-	
		算出根拠等		達成率(%)			-	
				目標値				
				実績値			-	
		算出根拠等		達成率(%)			-	
	補足事項							
	コスト面	事業費 (人件費を除き繰越・補正を含む)			H24 決算額	H25 決算額	H26 予算額	
歳出 (千円) (A)			820	820	1,000			
受益者負担(使用料・負担金等)								
その他特定財源(国・県支出金・起債等)								
一般財源			820	820	1,000			
受益者1件当たり(円) (A÷B)			215	217	269			
コスト指標	受益者	久々野地域住民 (B)	3,822	3,771	3,720			

3 分析・評価(Check) ※平成25年度の実績を評価

評価項目		評価観点	評価基準		評価	評価内容の説明(評価の理由等)
①	市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2)	ニーズが高い	A	・道路の景観保全や交通事故防止のため、ニーズは非常に高い。
			B (1)	ある程度のニーズがある		
			C (0)	ニーズが低い		
②	市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2)	事業主体を見直す余地はない	A	・市が管理する道路であり、生活道路の環境保全からも重要性は高い。
			B (1)	一部見直しが必要である		
			C (0)	市が実施する必要性が低い		
③	活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2)	目的とする成果が十分にあげている	A	・毎年計画のとおり実施し、目的を達成している。
			B (1)	目的とする成果がある程度あがっている		
			C (0)	目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である		
④	執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2)	事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない	B	・生活道路環境や景観保全、交通事故防止という目的からコストは概ね適正である。
			B (1)	事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている		
			C (0)	効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤	政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2)	効果があった	A	・安全で快適な市道環境を保ち、久々野地域住民の安全な生活を支えることができる。
			B (1)	ある程度効果があった		
			C (0)	あまり効果が見られなかった		

合計		9 / 10	→	100点換算	90 点
----	--	--------	---	--------	------

分析・評価で明らかにになった課題(「A」評価にするために何が必要なかを記入)	・安全で快適な通行を確保するためには、道路の環境整備が必要不可欠であり今後もコストの縮減に努める必要がある。
--	--

(参考) H25事業評価結果(二次評価)	・市全体のバランスを考慮し、一般予算で実施しているものとの整合を図って実施する必要がある。
----------------------	---

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する今年度の対応状況	・安全な通行を確保するため、道路の環境整備に努める。
-----------------	----------------------------

次年度の 実施方針 (担当課評価)		維持・改善		拡大		縮小		廃止の検討	○	H26完了予定

二次評価 (企画課・総務課・財政課評価)		維持・改善		拡大		縮小		廃止の検討	○	H26完了予定

平成26年度事業評価シート(地域振興特別予算)

事業名		94699	ふるさと名人継承事業	担当課	久々野支所 地域振興課		内線
専任							3512
予算	会計	1	一般会計	特別 位置 付け の 算 入	A	合併前から実施されているイベント・行事	
	款	9	教育費		B	一般予算の上乗せとして実施されている事業	
	項	4	社会教育費		C	終期を定めて実施する事業・単年度事業	
	目	6	文化振興費		O	D	その他事業
根拠計画			地域振興計画				
市長公約		9	伝統文化を守り、次世代へ継承します。 ◎芸術文化の振興を積極的に支えます。 ・心の中や生活に潤いと豊かさを醸し、生きがいや、若者の社会参加へのやる気づかりにもつながる芸術文化活動をさらに浸透させ、広げていくために芸術文化の保存と継承、新たな芸術文化の創出のための予算を総予算枠の1%以上を確保する。				

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	全市民	対象者数	91,605 人
	どういう状態にしたいのか(意図)	・「小屋名しようけ」「有道しゃくし」の技術の普及と後継者の育成を行い、後世に引き継いでいく。		
概要	事業の実施手法(手段)	・講習会の実施(10回)		

2 事業の推移・結果(Do)

H25の実績		・「小屋名しようけ」:10月から3月までに10回の講習会を開催 ・「有道しゃくし」:10月から3月までに10回の講習会を開催					
指標名		単位	目標・実績	H24	H25	H26	
活動指標	受講申込者数(小屋名しようけ)	人	目標値	20	20	20	
			実績値	24	23	-	
			算出根拠等	達成率(%)	120	115	-
活動指標	受講申込者数(有道しゃくし)	人	目標値	10	10	10	
			実績値	7	7	-	
			算出根拠等	達成率(%)	70	70	-
活動指標	継続受講申込者数	人	目標値	15	15	15	
			実績値	8	15	-	
			算出根拠等	達成率(%)	53	100	-
成果指標	新規受講申込者数	人	目標値	15	15	15	
			実績値	18	15	-	
			算出根拠等	達成率(%)	120	100	-
成果指標	修了証交付者数(小屋名しようけ)	人	目標値	15	15	15	
			実績値	11	8	-	
			算出根拠等	達成率(%)	73	53	-
成果指標	修了証交付者数(有道しゃくし)	人	目標値	8	8	8	
			実績値	6	7	-	
			算出根拠等	達成率(%)	75	88	-
補足事項							
コスト面	事業費 (人件費を除き繰越・補正を含む)		H24 決算額	H25 決算額	H26 予算額		
	歳出 (千円) (A)		165	188	220		
	財源内訳	受益者負担(使用料・負担金等)					
		その他特定財源(国・県支出金・起債等)					
		一般財源		165	188	220	
	コスト指標	受益者1件当たり(円) (A／B)		2	2	2	
		受益者	全市民 (B)	92,861	92,097	91,605	

3 分析・評価(Check) ※平成25年度の実績を評価

評価項目		評価観点		評価基準		評価	評価内容の説明(評価の理由等)	
①	市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2)	ニーズが高い	B		・久々野地域以外の住民からの受講申込も多く、新規受講者も多いので、市民ニーズはある。	
			B (1)	ある程度のニーズがある				
			C (0)	ニーズが低い				
②	市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2)	事業主体を見直す余地はない	B		・保存会の存在があるので、保存会としての継承活動を支援する方向性の見直しが必要である。 ・市としても、重要な伝承芸術であるので、後世へ引き継ぎ、技術を残すためには支援が必要である。	
			B (1)	一部見直しが必要である				
			C (0)	市が実施する必要性が低い				
③	活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2)	目的とする成果が十分にあがっている	A		・継続受講者をはじめ、新規受講者も多くあり、伝承芸術の継承には成果があがっている。	
			B (1)	目的とする成果がある程度あがっている				
			C (0)	目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である				
④	執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2)	事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない	A		・材料費などの必要最低限の経費で、多くの受講者を受け入れている。	
			B (1)	事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている				
			C (0)	効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である				
⑤	政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2)	効果があった	B		・伝統芸能を後世に引き継ぐという観点から、文化資源を活かした地域づくりにおいて効果がある。	
			B (1)	ある程度効果があった				
			C (0)	あまり効果が見られなかった				

合計		7 / 10	→	100点換算	70 点
----	--	--------	---	--------	------

分析・評価で明らかになった課題(「A」評価にするために何が必要なかを記入)	・保存会の自主的な活動に向けた方向性が必要である。
---------------------------------------	---------------------------

(参考) H25事業評価結果 (二次評価)	・特例期間終了を見据え、市全体のバランスを考慮し、縮小(廃止)を検討する必要がある。
-----------------------------	--

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する今年度の対応状況	・技術伝承者を保存会に加入してもらうため、優秀な伝承者の掘り起こしと保存会への加入の意思確認等のためのアンケートを実施するなどして保存会との協議を行う。
-----------------	--

次年度の実施方針 (担当課評価)		維持・改善		拡大		縮小		廃止の検討	O	H26完了予定

二次評価 (企画課・総務課・財政課評価)		維持・改善		拡大		縮小		廃止の検討	O	H26完了予定

平成26年度事業評価シート(地域振興特別予算)

事業名	61199		道の駅整備事業	担当課	久々野支所 基盤産業課		内線 3531
	番組						
予算	会計	1	一般会計	特別 位置 付け 算の		A 合併前から実施されているイベント・行事	
	款	6	商工費			B 一般予算の上乗せとして実施されている事業	
	項	1	商工費			O C 終期を定めて実施する事業・単年度事業	
	目	1	商工振興費			D その他事業	
根拠計画		地域振興計画					
市長公約							

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	全市民	対象者数	91,605 人
	どういう状態にしたいのか(意図)	老朽化し、危険な状態にある道の駅「飛騨街道なぎさ」のシンボлтаワー(展望ぐら)を解体し、利用者の安全を図る。		
概要	事業の実施手法(手段)	展望ぐら解体撤去工事		

2 事業の推移・結果(Do)

成果面	H25の実績		H26新規事業				
	指標名		単位	目標・実績	H24	H25	H26
	成果指標	道の駅利用人数	人	目標値			210,000
		実績値		201,562	220,292	-	
	算出根拠等	道の駅利用人数	達成率(%)			-	
			目標値				
			実績値			-	
	算出根拠等		達成率(%)			-	
			目標値				
			実績値			-	
	算出根拠等		達成率(%)			-	
			目標値				
			実績値			-	
	算出根拠等		達成率(%)			-	
	補足事項						
コスト面	事業費 (人件費を除き繰越・補正を含む)		H24 決算額	H25 決算額	H26 予算額		
	歳出 (千円) (A)		0	0	2,000		
	財源内訳						
	受益者負担(使用料・負担金等)						
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)						
コスト指標	一般財源		2,000				
	受益者1件当たり(円) (A/B)		22				
	受益者	全市民 (B)			91,605		

3 分析・評価(Check) ※平成25年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準	評価	評価内容の説明(評価の理由等)
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2) ニーズが高い	評価対象外	H26新規事業
		B (1) ある程度のニーズがある		
		C (0) ニーズが低い		
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2) 事業主体を見直す余地はない	評価対象外	H26新規事業
		B (1) 一部見直しが必要である		
		C (0) 市が実施する必要性が低い		
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2) 目的とする成果が十分にあがっている	評価対象外	H26新規事業
		B (1) 目的とする成果がある程度あがっている		
		C (0) 目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である		
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2) 事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない	評価対象外	H26新規事業
		B (1) 事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている		
		C (0) 効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2) 効果があった	評価対象外	H26新規事業
		B (1) ある程度効果があった		
		C (0) あまり効果が見られなかった		

合計	/	→	100点換算	評価対象外 点
----	---	---	--------	---------

分析・評価で明らかにになった課題(「A」評価にするために何が必要なかを記入)	
--	--

(参考) H25事業評価結果 (二次評価)	
-----------------------------	--

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する今年度の対応状況	H26完了予定
-----------------	---------

次年度の実施方針 (担当課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	O	H26完了予定

二次評価 (企画課・総務課・財政課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	O	H26完了予定

平成26年度事業評価シート(地域振興特別予算)

事業名		72399		市道改良事業	担当課	久々野支所 基盤産業課		内線
		番組					3541	
予算	会計	1	一般会計	特別 位置 付け 算の	A	合併前から実施されているイベント・行事		
	款	7	土木費		B	一般予算の上乗せとして実施されている事業		
	項	2	道路橋りょう費		○	終期を定めて実施する事業・単年度事業		
	目	3	道路新設改良費		D	その他事業		
根拠計画				地域振興計画				
市長公約		6	市民の生活と生命・財産を守ります ・支所地域と市街地を結ぶ主要道路の整備や都市計画道路の整備を進めます。					

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	久々野地域住民	対象者数	3,720 人
	どういう状態にしたいのか(意図)	・極小な現状幅員を拡幅する事により、冬期を含め安全に安心して利用ができる生活道路を整備する。		
概要	事業の実施手法(手段)	・道路施設の長寿命化やコスト縮減を踏まえた道路拡幅改良をする。(施工延長 L=92.00m W=3.00m)		

2 事業の推移・結果(Do)

H25の実績		・H26新規事業						
成果面	指標名		単位	目標・実績	H24	H25	H26	
	成果指標	道路改良延長	m	目標値			92	
				実績値			-	
		算出根拠等			達成率(%)			-
				目標値				
				実績値			-	
		算出根拠等			達成率(%)			-
				目標値				
				実績値			-	
		算出根拠等			達成率(%)			-
				目標値				
				実績値			-	
		算出根拠等			達成率(%)			-
				目標値				
				実績値			-	
		算出根拠等			達成率(%)			-
	補足事項							
	コスト面	事業費 (人件費を除き繰越・補正を含む)			H24 決算額	H25 決算額	H26 予算額	
歳出 (千円) (A)			0	0	12,500			
財源内訳		受益者負担(使用料・負担金等)						
		その他特定財源(国・県支出金・起債等)						
		一般財源					12,500	
コスト指標		受益者1件当たり(円) (A÷B)					3,360	
	受益者	久々野地域住民 (B)				3,720		

3 分析・評価(Check) ※平成25年度の実績を評価

評価項目		評価観点	評価基準		評価	評価内容の説明(評価の理由等)
①	市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2)	ニーズが高い	評価対象外	・H26新規事業
			B (1)	ある程度のニーズがある		
			C (0)	ニーズが低い		
②	市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2)	事業主体を見直す余地はない	評価対象外	・H26新規事業
			B (1)	一部見直しが必要である		
			C (0)	市が実施する必要性が低い		
③	活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2)	目的とする成果が十分にあげている	評価対象外	・H26新規事業
			B (1)	目的とする成果がある程度あがっている		
			C (0)	目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である		
④	執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2)	事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない	評価対象外	・H26新規事業
			B (1)	事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている		
			C (0)	効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤	政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2)	効果があった	評価対象外	・H26新規事業
			B (1)	ある程度効果があった		
			C (0)	あまり効果が見られなかった		

合計		/	→	100点換算	評価対象外	点
----	--	---	---	--------	-------	---

分析・評価で明らかにになった課題 (「A」評価にするために何が 必要なかを記入)	
--	--

(参考) H25事業評価結果 (二次評価)	
-----------------------------	--

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する 今年度の対応状況	・計画区間を速やかに実施する。
---------------------	-----------------

次年度の実施方針 (担当課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	O	H26完了予定

二次評価 (企画課・総務課・財政課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	O	H26完了予定

平成26年度事業評価シート(地域振興特別予算)

事業名		20999		地域振興助成事業	担当課	久々野支所 地域振興課		内線
		番組						3511
予算	会計	1	一般会計		特別 位置 付け の 算	A	合併前から実施されているイベント・行事	
	款	2	総務費			B	一般予算の上乗せとして実施されている事業	
	項	1	総務管理費			C	終期を定めて実施する事業・単年度事業	
	目	9	企画課			D	その他事業	
根拠計画								
市長公約		合併のメリットを活かしつつ、それぞれの地域の特性を伸ばします。 ・地域の個性あるまちづくりと、市域の一体感を創るため、地域が手を取り合って取り組む活動に支援します。						

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	久々野地域住民	対象者数	3,720 人
	どういう状態にしたいのか(意図)	・地域住民が自分たちの地域を自分たちの手でより良くしていく活動にに対し支援する。		
概要	事業の実施手法(手段)	・地域の人材や労力を活用し、助言や経費などを支援することにより、生活環境などを整備する。		

2 事業の推移・結果(Do)

H25の実績		・安全、安心、快適な住環境づくりに関する事業 ・特色ある地域づくり、地域活性化に関する事業		19団体 11団体				
成果面	指標名		単位	目標・実績	H24	H25	H26	
	活動指標	申請数	件	目標値	40	40	40	
				実績値	38	42	-	
		算出根拠等		申請数	達成率(%)	95	105	-
	成果指標	補助件数	件	目標値	40	40	40	
				実績値	38	42	-	
		算出根拠等		補助実績数	達成率(%)	95	105	-
	成果指標	補助金交付率	%	目標値	95	95	95	
				実績値	84	70	-	
		算出根拠等		予算執行額／予算額	達成率(%)	89	74	-
				目標値				
				実績値			-	
		算出根拠等			達成率(%)			-
				目標値				
				実績値			-	
		算出根拠等			達成率(%)			-
				目標値				
				実績値			-	
		算出根拠等			達成率(%)			-
補足事項								
コスト面	事業費 (人件費を除き繰越・補正を含む)			H24 決算額	H25 決算額	H26 予算額		
	歳出 (千円) (A)			6,326	5,201	6,500		
	財源内訳	受益者負担(使用料・負担金等)						
		その他特定財源(国・県支出金・起債等)						
		一般財源			6,326	5,201	6,500	
	コスト指標	受益者1件当たり(円) (A／B)			1,655	1,379	1,747	
		受益者	久々野地域住民 (B)		3,822	3,771	3,720	

3 分析・評価(Check) ※平成25年度の実績を評価

評価項目		評価観点		評価基準		評価	評価内容の説明(評価の理由等)	
①	市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2)	ニーズが高い	A		・地域住民が所属自治会などを中心に活動し、地域の住環境整備やコミュニティ意識強化の一環になっているため、住民からの強いニーズがある。	
			B (1)	ある程度のニーズがある				
			C (0)	ニーズが低い				
②	市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2)	事業主体を見直す余地はない	B		・市民が安心して暮らせる地域を築くため、地域の自主的なコミュニティ活動や環境整備事業を支援することは、地域活動を育成するために必要である。	
			B (1)	一部見直しが必要である				
			C (0)	市が実施する必要性が低い				
③	活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2)	目的とする成果が十分にあがっている	B		・申請団体の活動に対する参加者も増えてきており、住環境整備のみならず地域振興的な内容も見られるようになっている。	
			B (1)	目的とする成果がある程度あがっている				
			C (0)	目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である				
④	執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2)	事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない	B		・計画に対して支所から申請者に助言し内容の精査を行っている。 ・住民が自ら事業内容を検討しコストが適正か確認している。	
			B (1)	事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている				
			C (0)	効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である				
⑤	政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2)	効果があった	A		・地域住民が自主的に住みやすい環境づくりに貢献することは、地域社会の育成に効果がある。	
			B (1)	ある程度効果があった				
			C (0)	あまり効果が見られなかった				

合計		7 / 10	→	100点換算	70 点
----	--	--------	---	--------	------

分析・評価で明らかにになった課題(「A」評価にするために何が必要なかを記入)	・市民が安心して暮らせる地域を築くため、地域の自主的なコミュニティ活動や環境整備事業を支援することは、地域社会活動を育成するために必要である。
--	---

(参考) H25事業評価結果 (二次評価)	・平成26年度を終期としている事業であり、執行内容を精査し、平成27年度以降の対応について検討する必要がある。
-----------------------------	---

今後の方向性(Action)	課題等に対する今年度の対応状況	・地域住民に平成26年度終期を周知し、協働のまちづくりへの理解を深めながら自主活動の育成を進める。
----------------	-----------------	---

次年度の 実施方針 (担当課評価)		維持・改善		拡大		縮小		廃止の検討	○	H26完了予定

二次評価 (企画課・総務課・財政課評価)		維持・改善		拡大		縮小		廃止の検討	○	H26完了予定

平成26年度事業評価シート(地域振興特別予算)

事業名		20999		地域要望対応事業	担当課	久々野支所 地域振興課		内線
		番組						3511
予算	会計	1	一般会計	特別 位置 付け	A	合併前から実施されているイベント・行事		
	款	2	総務費		B	一般予算の上乗せとして実施されている事業		
	項	1	総務管理費		C	終期を定めて実施する事業・単年度事業		
	目	9	企画費		O	その他事業		
根拠計画								
市長公約		合併のメリットを活かしつつ、それぞれの地域の個性を伸ばします。						

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	久々野地域住民	対象者数	3,720 人
	どういう状態にしたいのか(意図)	・地域の要望に対して早急に対応を行い地域の環境整備を図る。		
概要	事業の実施手法(手段)	・地域の要望により市道や農道、水路等の軽微な修繕を実施。		

2 事業の推移・結果(Do)

H25の実績		市道修繕(15件)、排水路修繕(3件)、公共施設修繕(9件)、林道崩土除去(1件)						
指標名			単位	目標・実績	H24	H25	H26	
活動指標	要望事項受付数		件	目標値	20	20	20	
				実績値	25	28	-	
	算出根拠等	要望事項受付数／要望事項受付目標数		達成率(%)	125	140	-	
成果指標	要望事項実施数		件	目標値	20	20	20	
				実績値	25	28	-	
	算出根拠等	実施数／要望事項実施目標数		達成率(%)	125	140	-	
成果面				目標値				
				実績値			-	
	算出根拠等			達成率(%)			-	
				目標値				
				実績値			-	
	算出根拠等			達成率(%)			-	
				目標値				
				実績値			-	
	算出根拠等			達成率(%)			-	
				目標値				
				実績値			-	
	算出根拠等			達成率(%)			-	
補足事項								
・地域住民からの要望を精査し関係課と協議し予算執行できるよう調整している。								
コスト面	事業費 (人件費を除き繰越・補正を含む)			H24 決算額	H25 決算額	H26 予算額		
	歳出(千円)(A)			7,890	6,708	9,900		
	財源内訳	受益者負担(使用料・負担金等)						
		その他特定財源(国・県支出金・起債等)						
		一般財源			7,890	6,708	9,900	
	コスト指標	受益者1件当たり(円)(A／B)			2,064	1,779	2,661	
		受益者	久々野地域住民(B)		3,822	3,771	3,720	

3 分析・評価(Check) ※平成25年度の実績を評価

評価項目		評価観点	評価基準		評価	評価内容の説明(評価の理由等)
①	市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2)	ニーズが高い	B	・地域から提出される事業要望件数は昨年度より増加している。
			B (1)	ある程度のニーズがある		
			C (0)	ニーズが低い		
②	市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2)	事業主体を見直す余地はない	A	・地域の要望により市道や水路等の公共施設の修繕が実施されることは、施設の延命化につながる。
			B (1)	一部見直しが必要である		
			C (0)	市が実施する必要性が低い		
③	活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2)	目的とする成果が十分にあげている	A	・要望の件数は多、精査を行って実施しており、地域からの要望はおおむね達成している。
			B (1)	目的とする成果がある程度あがっている		
			C (0)	目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である		
④	執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2)	事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない	B	・要望事項については、地域内で検討し地域内で対応できる事業と市が実施する事業に分けるよう検討している。
			B (1)	事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている		
			C (0)	効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤	政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2)	効果があった	A	・地域からの要望があった軽微な修繕工事を早期に対応しており、地域の環境整備に効果がある。
			B (1)	ある程度効果があった		
			C (0)	あまり効果が見られなかった		

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する 今年度の対応状況		・町内からの要望書を取りまとめ、現地調査により実施箇所を検討した上で事業を実施している。									
次年度の 実施方針 (担当課評価)		維持・改善		拡大		縮小		廃止の検討	○	H26完了予定	
二次評価 (企画課・総務課・財政課評価)		維持・改善		拡大		縮小		廃止の検討	○	H26完了予定	

平成26年度事業評価シート(地域振興特別予算)

事業名			土地借上料	担当課	久々野支所 地域振興課		内線 3511
	番組						
予算	会計	1	一般会計	特別 位置 付け 算の		A 合併前から実施されているイベント・行事	
	款					○ B 一般予算の上乗せとして実施されている事業	
	項					C 終期を定めて実施する事業・単年度事業	
	目					D その他事業	
根拠計画							
市長公約							

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	久々野地域住民	対象者数	3,720 人
	どういう状態にしたいのか(意図)	・久々野地域の公共施設維持のための土地の借上げ		
概要	事業の実施手法(手段)	・久々野地域の公共施設を維持運営するため、旧久々野町時代から民間から借り上げている土地の中で高山市の借上げ基準を上回る物件についての借上げ		

2 事業の推移・結果(Do)

成果面	H25の実績	・アルコピアスキー場土地 ・駅駐輪場 ・堂之上遺跡看板用地 ・久々野診療所及び久々野東部診療所					
		指標名	単位	目標・実績	H24	H25	H26
		成果指標	高山市土地借上げ基準達成件数	件	目標値 実績値	5 0	5 0
	算出根拠等	達成率(%)		0	0	-	
		目標値					
		実績値					-
		達成率(%)					-
		目標値					
		実績値					-
		達成率(%)					-
		目標値					
		実績値					-
		達成率(%)					-
		目標値					
		実績値					-
達成率(%)					-		
補足事項							
コスト面	事業費 (人件費を除き繰越・補正を含む)		H24 決算額	H25 決算額	H26 予算額		
	歳出 (千円) (A)		5,273	5,273	5,299		
	受益者負担(使用料・負担金等)						
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)						
	一般財源		5,273	5,273	5,299		
	受益者1件当たり(円) (A/B)		1,380	1,398	1,424		
コスト 指標	受益者	久々野地域住民 (B)	3,822	3,771	3,720		

3 分析・評価(Check) ※平成25年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準	評価	評価内容の説明(評価の理由等)
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2) ニーズが高い	A	・公共施設として地域住民が利用しており、維持運営するための土地借上げは必要である。
		B (1) ある程度のニーズがある		
		C (0) ニーズが低い		
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2) 事業主体を見直す余地はない	A	・公共施設として地域住民が利用しており、維持運営するための土地借上げは必要である。
		B (1) 一部見直しが必要である		
		C (0) 市が実施する必要性が低い		
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2) 目的とする成果が十分にあがっている	B	・目標値の達成に向けて、地権者と条件や期間など高山市の基準に近づくよう粘り強く交渉を行っている。
		B (1) 目的とする成果がある程度あがっている		
		C (0) 目的とする成果があがってないため大幅な見直しが必要である		
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2) 事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない	B	・地権者と条件や期間など高山市の基準に近づくよう粘り強く交渉を行っている。
		B (1) 事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている		
		C (0) 効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2) 効果があった	A	・総合計画に基づく市民のための施設を維持運営するためには必要であり効果があった。
		B (1) ある程度効果があった		
		C (0) あまり効果が見られなかった		

合計	8 / 10	→	100点換算	80 点
----	--------	---	--------	------

分析・評価で明らかにになった課題(FA)評価にするために何が必要なかを記入)	・地権者と条件や期間などについて粘り強く交渉し、高山市の基準に近づくよう交渉していく。
--	---

(参考) H25事業評価結果 (二次評価)	・市の基準に近づくよう単価交渉を継続する必要がある。
-----------------------------	----------------------------

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する今年度の対応状況	・地権者と条件や期間などについて粘り強く交渉し、高山市の基準に近づくよう交渉していく。
-----------------	---

次年度の実施方針 (担当課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	○	H26完了予定

二次評価 (企画課・総務課・財政課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	○	H26完了予定